「こころを育む総合フォーラム」は、下記のみなさまからの
ご協賛・ご後援をいただき活動しております。

協賛　トヨタ自動車株式会社
　　パナソニック株式会社

後援　文部科学省
　　東海旅客鉄道株式会社
　　読売新聞社

こころを育む総合フォーラム に関するお問い合わせ

公益財団法人 パナソニック教育財団

こころを育む総合フォーラム事務局
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル6階
TEL.03-5521-6100　FAX.03-5521-6200
URL http://www.kokoro-forum.jp/

こころを育む総合フォーラム

こころを育む総合フォーラム 2017年度 活動報告書

公益財団法人 パナソニック教育財団

こころを育む総合フォーラムより

「こころを育む総合フォーラム」は、昨今の様々な社会事象から浮かび上がる日本人のこころの荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

そして設立以来、日本人のこころのありようについて討議を重ね、2007年に未来を担う子どもたちのためにできることを提言にまとめ、発表しました。

提言では、とくに「家庭」、「学校」、「地域」、「企業・社会」の4つの分野へのメッセージという形で、より具体的な提案をさせていただきました。

＊「家庭」という場所を見なおそう
＊「学校」という場所を見なおそう
＊ 子どもを育む場としての「地域」を見なおそう
＊ 情報社会における「企業・社会」の使命と役割を見なおそう

本提言が、それぞれの立場でできることを考えるヒントにしていただければと思います。(提言の内容はホームページからご覧いただけます)

この提言を具現化するために、子どもたちの“こころを育む活動”を応援し、広げるための全国運動の呼びかけを始めました。
全国各地で取り組まれているこころを育む優れた活動を募集・表彰し、広く紹介しています。
また、有識者メンバーが各地を訪問し、地域の活動の実践者と交流する全国キャラバンを行っています。

2017年度は、10月に昨年度の全国大賞である「和歌山県立熊野高等学校」で全国キャラバンを行い、12月には“こころを育む活動”全国大賞および各賞を決定し、翌年2月に表彰式を開催することができました。今年度は表彰10回目にあたり、これまでのあゆみの振り返りと、過去受賞団体による活動の継続と広がりについて報告いただきました。
具体的な内容は、後述の通りです。

本書が、“こころを育む”環境づくりのための取り組みのヒントになり、活動の輪がさらに広まるきっかけとなれば幸いです。
今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Contents 目次

フォーラムの概要 …… 4

2017年度の活動
一年間の取り組み …… 6

子どもたちの“こころを育む活動”表彰
全国大賞 …… 7
長野市立城東小学校（長野県）
優秀賞 …… 10
やかげ小中高こども連合 YKG60（岡山県）
優秀賞 …… 11
社会福祉法人 宇多津町社会福祉協議会（香川県）
奨励賞 …… 12
特定非営利活動法人 あおもり若者プロジェクト クリエイト（青森県）
奨励賞 …… 13
恵那市立串原小・中学校（岐阜県）
奨励賞 …… 14
一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会（三重県）
奨励賞 …… 15
登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会（奈良県）
奨励賞 …… 16
志免町立志免南小学校（福岡県）

前年度受賞団体の受賞後の活動紹介 …… 17

歴代全国大賞 受賞団体 …… 18

パナソニック教育財団 紹介 …… 19

こころを育む総合フォーラム 活動の経緯

2005年 「こころを育む総合フォーラム」発足
学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足

2007年 議論をまとめた「提言書」をプレス発表
発足から計18回の討議を経て、提言書を公表

2008年 「全国運動」スタート
全国キャラバン、子どもたちの“こころを育む”活動の募集・表彰を開始（2008年度～）

2011年 東日本大震災支援活動（トヨタ財団との共同プロジェクト）実施
「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を実施（2011～2013年度）

2013年 「有識者対談」WEB連載（東洋経済オンラインとのコラボレーション企画）
山折座長を中心に有識者メンバーと「日本人としての教養～次世代に継承したいこと」をテーマに対談（2013年度～）

2015年 フォーラム活動10年
東京にてフォーラム活動10年特別シンポジウムを開催

2017年 全国運動10年
表彰式&10年のあゆみを開催

こころを育む総合フォーラムとは

発足の経緯と設立趣旨

「こころを育む総合フォーラム」は、学界、経済界をはじめ各界を代表する有識者16名により、2005年4月に設立されました。

家庭や教育現場における人間関係の乱れ、こころの凍りつくような残虐な事件の発生など、かつて日本人がもっていたはずの倫理性の喪失を示す兆候がいたるところにみられます。その原因は、第一に人間の精神性と倫理感を育む「こころの教育」がおろそかにされてきたからではないか。このような問題に取り組むため、各方面の専門家の英知を結集し、何が解決のために緊急の問題であるかを明らかにするとともに、広く意味ある提言を行っていきたいと考えています。

こころを育む総合フォーラム　有識者メンバー（2017年度）（敬称略・50音順）

安西祐一郎　（日本学術振興会 理事長）
石井　幹子　（石井幹子デザイン事務所 主宰）
市川　伸一　（東京大学大学院 教育学研究科 教授）
上田　紀行　（東京工業大学リベラルアーツ教育研究院長・教授）
葛西　敬之　（東海旅客鉄道 代表取締役名誉会長）
梶田　叡一　（学校法人桃山学院 教育顧問）
佐々木　毅　（東京大学 名誉教授）
滝鼻　卓雄　（元 読売新聞東京本社 会長）
竹内　　洋　（関西大学 東京センター長）
張　富士夫　（トヨタ自動車 相談役）
遠山　敦子　（パナソニック教育財団 顧問）
中村　桂子　（ＪＴ生命誌研究館 館長）
長榮　周作　（パナソニック 代表取締役会長）
野依　良治　（科学技術振興機構 研究開発戦略センター長）
平野啓一郎　（小説家）
三村　明夫　（新日鐵住金 相談役名誉会長）
山折　哲雄　（国際日本文化研究センター名誉教授 宗教学者）
鷲田　清一　（京都市立芸術大学 理事長・学長）

有識者会議

有識者会議（ブレックファースト・ミーティング）は、「こころを育む総合フォーラム」発足メンバー16名によりスタートしました。現在は、有識者18名により会議を継続。ゲストスピーカーを招き、子どもたちをとりまく環境、課題について討議を深めています。

提言書

発足から計18回の討議を経て、2007年に提言書をまとめ公表しました。

家庭・学校・地域・企業という4つの分野での育みを見直すために、それぞれの立場でできることを「7つの問い」の形で呼びかけています。

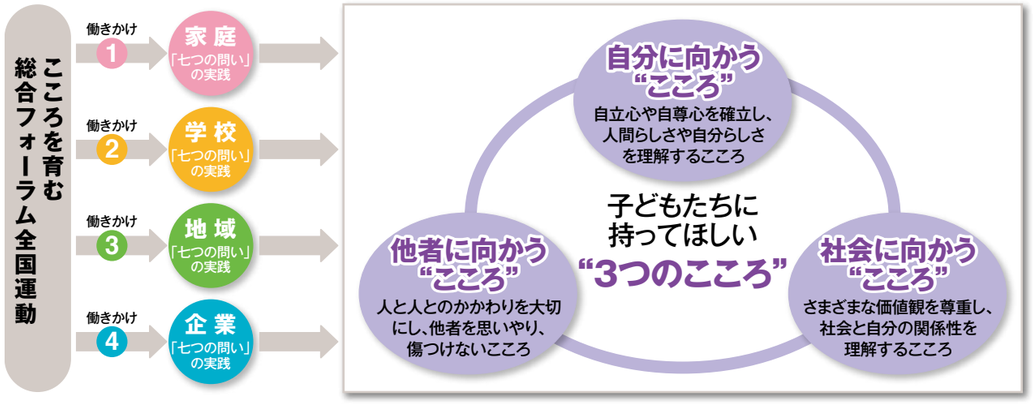
「7つの問い」とは、家庭に向けては「親（保護者）の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか」、学校に向けては「教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか」、地域に向けては「地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育んでいるだろうか」など、より具体的な提案をさせていただきました。

提言書の詳細は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページでご覧いただけます。
http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php

全国運動

提言を具現化するために、2008年より全国各地で実践されている子どもたちの“こころを育む活動”を支援する全国運動を呼びかけています。家庭・学校・地域・企業という子どもたちを取り巻く各分野においてそれぞれの立場でできることを意識したさまざまな活動が実践されること、そして子どもたちに持ってほしい“3つのこころ”をバランスよく育むことを目指し、「呼びかける」「紹介する」「ほめる」「広める」の4つの考え方をもとに展開しています。

全国運動のねらい



全国運動を進めるための考え方

呼びかける

全国運動の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

- パンフレットやホームページを作成し、運動の趣旨を多くの人に知らせます。
- 提言書を発行し、広く社会に呼びかけます。

紹介する

全国各地で実践されている活動をより多くの人に知らせ、それらの活動へ参加・支援するきっかけを作ったり、活動の改善・拡大の機会を提供します。

- 活動報告を作成し、広く一般化できる活動や特徴ある取り組みを集めて紹介します。

ほめる

全国各地で実践されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、活動の元気づけをします。

- 主に学校、全国小学校道徳教育研究会、PTA、NPO団体を通じて、多彩な活動を募集します。
- 他の活動の参考となるよい活動を表彰します。

広める

全国運動を広めるために、運動に関心のある個人・団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことで、運動のネットワーク化を進めます。

- 全国で多彩な活動を行う団体のネットワークづくりをします。
- シンポジウムや全国キャラバンを実施します。

2017年度の活動［一年間の取り組み］

有識者会議

有識者メンバーによるブレックファースト・ミーティング（有識者会議）を、2005年の設立より継続して開催しています。

毎回ゲストスピーカーを招き、「日本人のこころのありよう」について、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ねています。

有識者対談の書籍を刊行

2017年9月に、フォーラムの有識者による対談をまとめた書籍『次世代に伝えたい日本人のこころ』を刊行しました。

「東洋経済オンライン」との共同企画による対談シリーズを収録したもので、山折座長と各界を代表する有識者が、これからの日本人に必要な教養（こころ）をどう教え、継承していくかについて語っています。

※有識者対談はホームページでご覧いただけます。
http://www.kokoro-forum.jp/project_toyokeizai/

『次世代に伝えたい日本人のこころ』パナソニック教育財団こころを育む総合フォーラム編（PHP研究所）

全国運動

全国キャラバン2017 in 口熊野かみとんだ【和歌山県】

有識者メンバーが大賞を受賞した団体の地元を訪ね、”こころを育む活動”を実践している方々と交流する全国キャラバンを毎年開催。地域の皆さんとともに子どもたちの健やかな未来を考え、活動の輪を広げる貴重な機会となっています。

内容

10月29日、上富田文化会館にて開催を予定していた全国キャラバンは、残念ながら台風のため中止となりました。

当日は、上富田町長をはじめ熊野高校の校長や先生方、地域ボランティアなど現地関係者にご参加いただき、フォーラムからは、山折座長、萩原委員、新谷委員、高際委員ほか関係者同席のもと、活動報告および懇談会を行いました。また、フォーラムの有識者対談をまとめた書籍100冊を和歌山県教育委員会へ贈呈いたしました。

熊野高校Kumanoサポーターズリーダー部の活動報告

子どもたちの”こころを育む活動”表彰

子どもたちの“こころを育む活動”に尽力されている団体を全国に紹介し、さらに活動を広げてもらうことを目的に表彰を行っています。毎年PTAや学校、NPOほか協力団体などの関係者による一次、二次選考を経て、こころを育む総合フォーラム有識者によって最終選考後、授賞先を決定しています。

内容

2018年2月6日、帝国ホテルにて「2017年度　子どもたちの“こころを育む活動”表彰式」を開催しました。今年度は、全国から寄せられた数多くの活動の中から8団体を表彰し、100名を超える関係者が参加しました。

「共に学ぶ長野ろう学校との41年目の交流活動 」をテーマに活動された長野市立城東小学校が大賞を受賞。さらに優秀賞を2団体、奨励賞を5団体が受賞しました。各団体による発表では、活動の様子が伝わる写真や、活動に取り組む方々の工夫や努力、熱意が伝わる興味深い内容が紹介されました。

10回目の表彰となった今回は、これまでの受賞団体にもご参加いただき、受賞後の活動報告と共に全国運動10年のあゆみを振り返りました。

2008年にスタートした全国運動では、10年で90団体11個人を表彰しました。活動を支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後さらに活動が広がっていくことを期待したいと思います。

2017年度受賞団体の皆様とこれまでの大賞受賞団体の皆様、有識者メンバー

全国大賞の長野市立城東小学校による活動発表
（左）教頭 中沢様（右）教諭 畔上様

2017年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰

受賞団体 活動紹介

全国大賞

長野市立城東小学校【長野県】

共に学ぶ長野ろう学校との41年目の交流活動
～共生社会の形成に向けて6年間の継続交流～

活動領域：学校／家庭／地域／企業
3つのこころ：自分に／他者に／社会に

選考理由

41年もの長期にわたって活動を続け、先生が変わっても継続して活動できているところが高評価となりました。また、交流が日常的にさまざまな活動の中で行われている点がすばらしく、6年間継続することで、子どもたちには自然に豊かなこころが育まれています。共生社会に向けて他でも取り組んでほしい内容です。

活動の概要と目的

自然な形で交流できる環境を、長期にわたり実現

城東小学校と長野ろう学校の子どもたちは、自然な形で6年間交流を継続することで、相手を理解し、思いやるこころが育まれています。

交流は、特別な機会ではなく、日常の学校生活における授業やクラブ活動、遠足や運動会など、通年行事の中で行われます。同学年同士で6年間交流を継続することで、自然な形でお互いに理解を深め、人間性豊かな人格が形成されることを目指しています。

交流運動会では、両校の子どもたちが開会式から競技まで一緒に行います。特に、組体操やダンスでは、仲間として協力して創り上げる中で、お互いにより良いコミュニケーション方法を工夫しながら理解を深めています。また、両校による「発足式」や「まとめの会」は、一人ひとりの個性や成果を認め合いながら、目的に向けて成長し合う機会となっています。

年間を通して多くの交流活動を円滑に、安全に実現させているのは、準備を含めた日程調整に奮闘する両校職員の努力や、保護者の理解と協力です。

活動内容の充実を図りながら継続し、2017年で41年目を迎えた交流活動は、共生社会の礎を築く取り組みとなっています。

わかりやすく伝え合う方法を確認したり、レクリエーションで親睦を深めるなど「発足会」では、交流に期待が持てるように学年ごとに工夫しています。

活動の特長

6年間の継続交流を41年間実施

同学年で6年間成長し合うことで、自然に豊かな人間性が育まれています。また、1976年から41年間交流が継続していることで、子どもたちはもとより、家庭や地域にも障がいを持つ方への理解と思いやりのこころが広がり、共生社会形成への原動力となることが期待されます。

日常の教育から共に学び成長し合う

特別な機会としてではなく、授業や給食、遠足や運動会など、通年行事を共に過ごすことで、感動や苦労を共有し、互いを認め合い、自然に仲間として助け合える信頼関係が築かれています。

自然な交流環境と継続を支える力

サポート側の良好な関係づくりと、準備を含めた日程調整の努力が、自然な交流環境と継続実績を支えています。行事や担当、学年ごとに集まりがあり、交流内容の検討から反省まで連絡を取り合い話し合いを重ねることで、安全で充実した交流環境を保つことができています。

「交流運動会」では、全ての種目を2週間前の練習から一緒に行います。当日は、両校の応援団長が元気に応援をリードして運動会を盛り上げます。

運動会の期間中には、一緒に学習し、一緒に給食を食べる機会があり、イベントのときだけでなく、普段の何気ない時間も大切に共有しています。

具体的な活動【1年間の流れ】

年間行事の中で、交流活動を月別にまとめました。活発な交流の様子が伝わります。

1年間の流れ　●は全校 ●は各学年の行事。●クラブは4～6年。

4月・**5月**
●発足会／各学年
●職員交流発足会
交流に際し、内容の検討・反省など全職員、各学年、各係での会議が行われている。

6月
●交流運動会
【合同開催42回目】
●ろう学校でお弁当を食べ、昼休み体育館で遊ぶ交流3年（運動会予備日）
●社会見学 4年（浄水場・消防署等）
●田植え 5年
●クラブ（2回）

7月
●プール交流 3年（城東小）

▶ろう学校の新プールで楽しく交流。

8月
●プール交流 2・3年（ろう学校）

9月
●プール交流6年（着衣泳）
●交流遠足
1年　城山動物園・科学センター
2年　緑が丘公園
3年　地附山公園
4年　小布施方面
5年　姨捨の棚田
6年　森将軍塚古墳
●クラブ（2回）

10月
●ろう学校祭 交歓会
●音楽会
○1曲演奏 3年
●クラブ（1回）

▶高学年は年7回クラブ活動で交流。

11月
●社会見学 5年
（農業試験場・竹内製作所等）
●クラブ（2回）

12月
●社会見学　事前学習3年
（城東小郷土資料室）
●まとめの会 6年
●交流会 1年（まとめの会/ろう学校）

1月
●社会見学 3年
（長野市立博物館）

▶博物館で昔の道具を体験する3年生。

2月
●交流文集【第35集】
●職員反省会
●交流会 5年（まとめの会/ろう学校）

3月
●まとめの会　2～4年

▶まとめの会では、学年ごとに1年間の交流を振り返ります。

年間実績
●交流運動会1回（合同開催42回目）●交流音楽会1回　●音楽鑑賞教室1回　●交流文集1回（第35集発行）
●発足会・まとめの会 各学年1回　●プール交流 各学年1～3回　●社会見学3～5年生各1回　●クラブ活動4～6年生各7回
● PTA主催 親子のふれあいの場「ふれあいでぃ」1回　● ろう学校祭交歓会（1974年～）卒業までに1回参加
● 学級独自の活動（体育・図工・家庭科などの教科やゲーム・稲作・補聴器体験などの総合的な学習）も不定期で実施。

子どもたちの変化・成長

違いを認め、相手に寄り添う

子どもたちには、継続的に交流することにより相手を理解しようとする気持ちが生まれ、相手に合わせたかかわり方を見つけようとする意識が根付いています。

さらに、自分と違うところがある人を決して排除せず、むしろ、違いを認めながら相手に寄りそって、自然につきあうことができています。

学年を追うごとに自然体に

子どもたちは、学年を追うごとに相手への理解を深め、自然体で交流できるようになっています。高学年になると、違いを認めて相手を受け入れ、協力しながら共に前に進もうとする豊かな人間性が育まれているのが感じられます。

先生の言葉
城東小学校
畔上 賢子先生

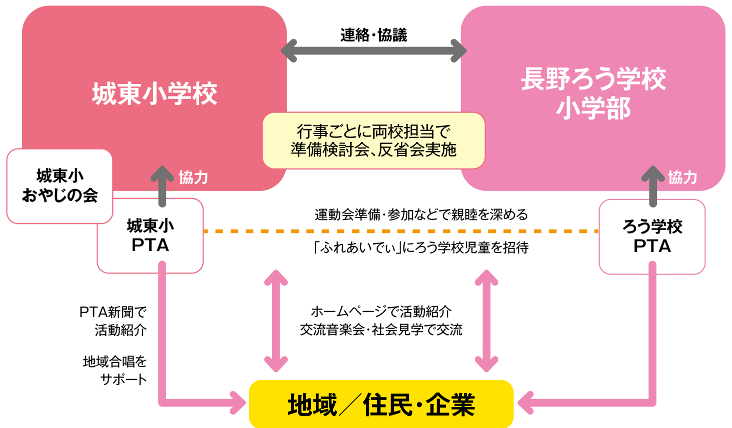
運動会の組体操では、6年生がジェスチャーを交えながら一緒に技を成功させる姿に、お互いへの理解の深まりと成長を実感しました。また、交流遠足では、低学年の頃から、一緒にお弁当を食べたり、鬼ごっこをしたりして自然体でかかわっていました。学年が進むにつれ、お互いの良さを感じ、学び合い支え合う姿が見られるようになりました。

継続的に交流することで、相手を理解し、相手に合わせたかかわり方を見つけようとする意識が根付いていることが感じられます。

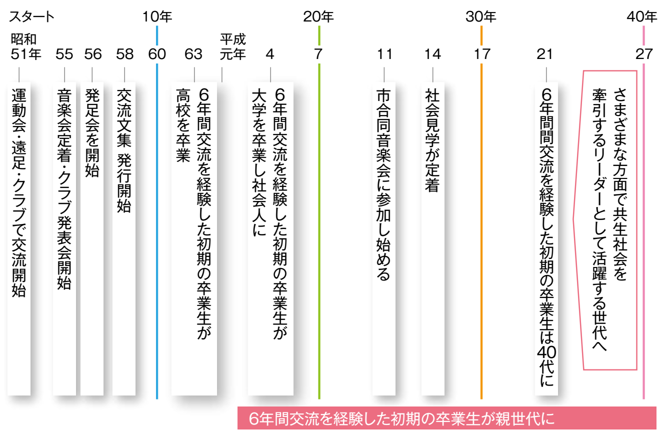
活動の広がり

41年間の交流を支えたのは、両校の日々の連携体制です。
交流を経験した卒業生は、共生のこころを胸に広く社会で活躍しています。

活動体制



交流の足あと



参加者の声

- ○○ちゃんが好きです。また、ろう学校へ行きたいです。（1年生）
- ろう学校のお友達もみんなも楽しそうだった。来年も行きたい。（2年生）
- バスの中でいろいろ話し、鬼ごっこをしてとても楽しかったです。（3年生）
- 手話付きの歌をろう学校の友達と一緒に歌えて良かった。（4年生）
- 耳が聞こえにくく、組体操の練習でやりにくいときがあったと思うけど、協力し合って本番は成功し、ろう学校の人とやりきれて良かった。（5年生）
- 人と人が接する中で大切なことは、相手を理解し自然体で接すること。（6年生）

～交流文集　6年 横川桃子さんの作文より抜粋～

「……考え方がだんだんと変わっていったのは、４年生になってからでした。……私たちと同じなんだから、緊張なんてしないし、距離を置くなんておかしい。……運動会で○○さんとペアになり、立つタイミングは、肩をとんとんとたたいて一緒に立ったり……少しゆっくり話して、拍手をしてみたりと気持ちを伝えることができました」

先生の言葉
長野ろう学校
中村 佑夏先生

城東小学校で２週間一緒に運動会の練習を行った際、ろう学校の子どもたちは集団の中に入ると、みんなの力に引っ張られるように動きが機敏になり、活発に動いていました。

交流活動では、子どもたちがお互いに興味をもち、自分の言葉でコミュニケーションをとろうとしていることを大切にしたいと思っています。

耳の聞こえるお友達と一緒に勉強したり、行動を共にしたりする時間には、仲間として一緒に楽しめるように、担任は少し距離をおいて見守るようにしています。

3つの工夫

進め方の工夫
両校の職員は、年度初めに交流の目的を共有し、より良い進め方を話し合うほか、障がいについての研修を受けたり、児童の特性を伝えあって指導や支援に活かしています。また、両校で学校および学年担当を決め、連絡を密にとり、交流を推進しています。子どもたちの発足会では、レクリエーションなどで親睦を深め、話しかけ方などを学びます。まとめの会では、良かったことを認め合い、来年度に意欲が持てるようにします。文集の作成では、1年を振り返って思い出や工夫を共有することで、意欲や自主性が培われています。

２年生が交流遠足で訪れた緑が丘公園で、ろう学校のお友達とのんびり過ごしています。打ち解けあっている様子が伝わるほほえましい1枚です。

連携の工夫
翌年度の年間計画立案時から両校で行事等をすりあわせ、交流活動が円滑に行えるように準備しています。運動会の係、クラブ担当など、両校で仕事を分担し検討を重ねながら内容を決定し、進行しています。行事そのものの日程はもちろん、スムーズな進行を支えるために行うたくさんの検討会や反省会は、両校職員の日程調整への努力により実現しています。また、運動会では、両校のＰＴＡが片付けの手伝いをするだけでなく、競技に参加して親睦を深めています。近隣の柳町保育園、柳町中学校も、ろう学校との交流を進めています。

音楽会では、ろう学校と城東小学校の3年生が一緒に練習を重ね、ボディパーカッションを披露。全校合唱は、手話付きで「まっかな秋」を歌いました。

継続の工夫
年度末には、両校で全体と学年ごとに活動を振り返る場を設定し、共通の認識をもって次年度の活動に活かしています。学年を基本に6年間交流を継続することで、1年生からの互いの成長が認め合えます。また、一緒にいることが当たり前になり、共に学習する楽しみも生み出しています。学年を重ねるごとに理解は深まり、反省や自主性から生まれる子どもたちの願いを大切に交流しています。41年継続できているのは、両校で情報を共有し、日程調整に奮闘しながら、子どもたちの成長を喜び合える関係づくりを日々行ってきた成果と言えます。

将来の活動の方向性
ろう学校との交流を41年間継続してきたことにより、子どもたちをはじめ、保護者や地域にも活動が浸透してきました。城東小学校の生徒たちには、身近にろう学校の友達がいることが自然になっています。さらに、子どもたちに育まれた「相手の違いを受け入れ、理解するこころ」が家族に伝わることで、やさしさとともに共生への理解が地域へも広がると考えられます。1年生から卒業までの6年間交流を継続するスタイルを大切に、これからも活動を継続していきます。

連絡先
●所在地：〒380-0803 長野県長野市三輪6丁目14番30号　●TEL：026-234-1226　●FAX：026-234-1227
●E-mail：jyotojs@nagano-ngn.ed.jp　●HP：http://www.nagano-ngn.ed.jp/jyotojs/
●代表者：中村 和雄（校長）　●担当者：中沢 英明（教頭）

優秀賞

やかげ小中高こども連合 YKG60【岡山県】

こどもが主役のまちづくり

活動領域：学校 / 家庭 / 地域 / 企業　　3つのこころ：自分に / 他者に / 社会に

選考理由

小学生から高校生までが縦につながる世代間交流が特徴的です。子どもたちの目線で地域の問題をとらえ、高校生を中心に子ども主体でさまざまな地域活動を展開している点が高く評価されました。

活動の概要と目的

小中高の子どもたちで地域の活性化策を企画・運営

2014年7月にスタートした「こどもが主役のまちづくり」は、小学生から高校生までの学校も年齢も異なる子どもたちが月に1度集まり、地域の課題や活性化について話し合い、解決策を検討、実践していく活動です。年間を通じてさまざまな事業やイベントを展開しており、内容はゴミ問題の啓発やリサイクル推進活動、地域振興を目的としたブランド商品化、カフェの運営など多岐にわたります。小・中学生は矢掛の豊かな自然を満喫するイベントを開催。高校生はユニバーサルデザインを志向し、発達障がいのある人たちとその家族を支える交流会を実施しているほか、パプアニューギニアの高校生との交流など国際交流事業にも取り組んでいます。

※YKG60：町政60周年の2014年に子どもたちが決めた団体の略称。YAKAGEのYKG、町政60周年の60。

自分たちで考えた地域ブランド商品「やかっぴーかきごおり」を販売する子どもたち。

子どもたちの変化・成長

子どもの目線で地域の問題をとらえ、協力して解決していく経験が子どもたちをたくましく成長させ、地域への愛着が培われているほか、高校生にはユニバーサルな志向やグローバルな発想も育っています。

（左）大人には見えないが子どもには見えるゴミ。古民家でゴミ問題のワークショップを開催。
（右上）発達障害のある人たちとその家族を招き、自然の中での交流会を開いた高校生。
（右下）パプアニューギニアの高校生を矢掛町に招いて交流。

参加者の声

【Y☆can】Yが矢掛でCANはできる。矢掛でも国際交流できるよという意味だ。Y☆Canをきっかけに国際交流や地域おこし、異文化について考えるようになった。（高校3年生）

【YKGてご】以前は引っ込み思案だったが、YKGの活動で積極的に人と話せるようになった。自分の考えを会議で話したり、自ら行動する力がついた。（高校3年生）

【YKG菫】グループ名に採用した菫（すみれ）の花言葉は「小さな幸せ」。参加者に幸せなひとときを過ごしてほしいとの思いを込めた。（大学1年生）

3つの工夫

進め方の工夫

子どもたちは多様な立場の人や異世代の人と触れ合うことで、地域社会における自分の役割や立ち位置を自覚します。人や社会との「つながり」を意識し、社会的役割を果たしながら、自分らしい生き方を見つけられるようにしています。

連携の工夫

町行政・町教育委員会・地域と協働して進めています。活動は中山間地モデルとして評価され、井辻代表は県教育委員会の社会教育委員として活動を広めています。活動をサポートする大人同士のつながりも深まっています。

継続の工夫

活動を通じて郷土愛が生まれ、町内の高校に進学する生徒も増えています。中山間地では18歳での流出が顕著ですが、YKG60の活動を資源としてAO・推薦入試で進学し、進学先でYKG60をモデルにした地域活動を行う大学生もいます。

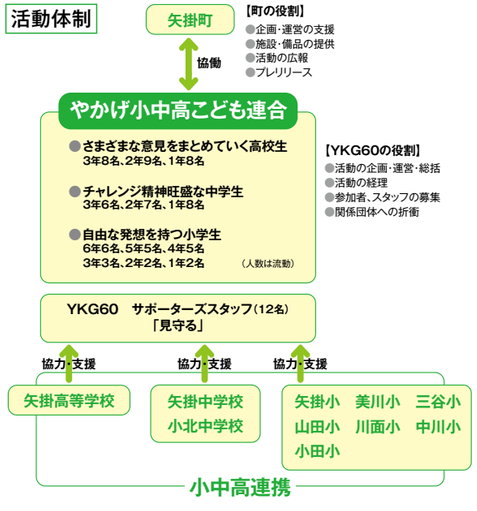
将来の活動の方向性

現在、一般社団法人化を目指して申請の準備中であり、活動拠点施設を町から貸与される話も進んでいます。また岡山県内を中心にYKGの活動に興味関心を持つ大学生も増えており、組織の活性化を図りたいと考えています。

活動の広がり

町や学校と連携して活動を広げています。

活動体制



連絡先　●所在地：〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2476　●TEL：090-9508-7728　●E-mail：yakagetokt@yahoo.co.jp
●HP：https://www.facebook.com/YKG60/?fref=ts　●代表者：井辻 美緒（共同代表）　●担当者：川上 公一（事務局）

優秀賞

社会福祉法人 宇多津町社会福祉協議会【香川県】

「ボランティア銀行」事業

活動領域：学校 / 家庭 / 地域 / 企業　　3つのこころ：自分に / 他者に / 社会に

選考理由

ボランティア活動で貯めたポイントは町をよくするために使い、自分のためには使えないというルールがユニークです。小・中学生に町をよくすることを考えさせる点が素晴らしいといえます。

活動の概要と目的

子どもたちの思いやりのハートを育み生かす活動

宇多津町社会福祉協議会では2008年6月より、町内の小・中学生を対象に「ボランティア銀行」事業を運営しています。小・中学生がボランティア活動をすると、お金の代わりにボランティア通帳に“ハート”という単位で預金することができます。貯まったハートは、1ハート＝1円に換金され、町内の福祉施設に車いすやおもちゃを寄贈したり、町をよくする活動の財源として寄付したりできます。

ただし、ハートは町をよくするためだけに使い、自分たちのために使うことはできないのがルール。子どもたちが地域のために活動し、それを地域の人たちが応援するしくみを作ることによって、誰にも住みやすい優しい町になることを目指しています。

ボランティアのハート数が、2008年度の44,030ハートから、2016年度には26倍の1,165,477ハートに増えました。

子どもたちの変化・成長

ボランティア活動によって地域の人たちとつながるだけでなく、自分たちが貯めたハート預金が目に見える形で町のために使われることから、子どもたちは喜びと地域の一員としての自覚を深めながら成長しています。

（左）ボランティア銀行通帳
（右上）通帳にハートが増えるのを目で楽しみながらボランティア活動に取り組む小学生。
（右下）貯まったハートで宇多津駅にエレベーターが設置されました。

参加者の声

清掃活動に参加する人は、町をきれいにするだけではなく、自分の心もきれいにしていると思う。（小学4年生）

ボランティアは、地域の人みんなが気持ちよく生活でき、町の人の笑顔のもとだと思う。（小学6年生）

ボランティアをすると、ハッピーな気持ちになれる。これからも人のため、社会のために役立ちたい。（中学3年生）

3つの工夫

進め方の工夫

小・中学生が、ボランティア通帳にハートが貯まっていくのを目に見える形で楽しみながら活動できるようにしています。町のイベント参加だけでなく、通学中にゴミを拾ったなど日常の活動でもハートが貯められるようにしています。

連携の工夫

宇多津町ボランティア連絡協議会（25団体）と連携し、子どもたちがボランティアに来た時には、通帳にスタンプを押し、ハート数を記入してもらい、子どもたちとの交流をお願いしています。子どもたちの見守りにもつなげています。

継続の工夫

ハートを貯める活動を小・中学校行事の一つにしてもらっています。毎年7月に「ボランティア体験発表会」と「ボランティア銀行贈呈式」を行い、地域の人にボランティア活動の取り組みと、ハートの使われ方を周知しています。

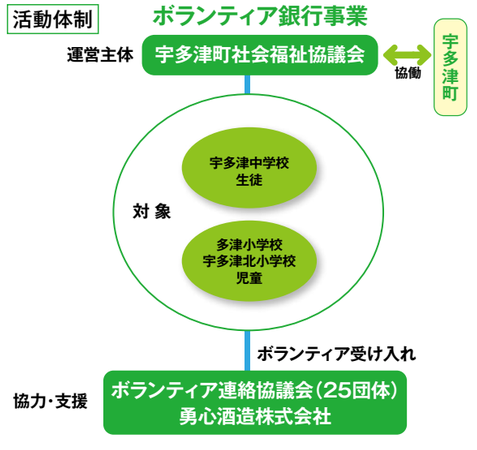
将来の活動の方向性

勉強もスポーツも得意でなく、学校から表彰を受けることがない子どもたちでも、ボランティア活動を頑張っている子どもたちは「ボランティア銀行」事業を通して表彰し、高校受験の推薦のプラスになるようにしていきたい。また、子どもたちや高齢者、地域の人が交流できる居場所を作りたいと考えています。

活動の広がり

当初は社会福祉協議会の自主財源で運営していましたが、小・中学生のボランティア活動が活発になるにつれ、1ハート＝1円の対応ができなくなったため、町内に本社を置く勇心酒造株式会社に財源面で応援していただくことになりました。

活動体制



連絡先　●所在地：〒769-0200　香川県綾歌郡宇多津町1900番地　●TEL：0877-49-0287　●E-mail：u_shakyo.f@w6.dion.ne.jp
●HP：http://utazushakyo.org/　●代表者：谷川 俊博（会長）　●担当者：藤沢 英明（総務グループ長）

奨励賞

特定非営利活動法人

あおもり若者プロジェクト クリエイト【青森県】

クリエイトまち塾

活動領域：学校 家庭 地域 企業　3つのこころ：自分に 他者に 社会に

選考理由

地域活性化に「教育」の視点をプラスし、若者が高校生を積極的に育てる点が特徴的です。活動の舞台を商店街に設定し、若い世代の視点で、経済活性化につなげている点も高く評価されます。

活動の概要と目的

まちでの挑戦を通じて、故郷を知る、未来を拓く

高校生を対象に、地域の社会資源である「商店街」の人材や資材を生かす通年型社会教育プログラム「クリエイトまち塾」を実施しています。商店街を学校に見立て、1クラスあたり少人数の高校生、商店主（担任）、地元大学生（副担任）が対等な立場で一体となって、1年間まちづくりに取り組みます。

事業の基軸となるのは、担任・副担任の創意工夫により多様なことにチャレンジする「ホームルーム活動」で、商店街CM制作やマップ作製、オリジナル商店街ツアーなど、商店街をフィールドに特色ある活動を展開します。1年かけて自らのアイデンティティになる「ふるさと」の人や資源に深くかかわることで、三者（自分・他者・社会）に向かうこころが育まれています。

商店主が担任役となり、商店街や地域の面白さをじかに伝える「ホームルーム」。

子どもたちの変化・成長

4年間で延べ103名の地元高校生を受け入れ、地域と高校生のつながりを構築してきました。参加者は地域愛着や自己肯定感、主体意識を高め、大学や社会で活躍する人、地元官公庁などに就職、活躍する人が多くいます。

（左）ホームルームで学んだことから、メンバーでまちづくりの企画を考えていきます。
（右上）世代を越えた人々と出会い、実社会を体験できる場。
（右下）昼食も担任や副担任、メンバーと一緒に。

参加者の声

- 活動を通して自分が青森を発展させたいと思うようになった。行動することの大切さを教えてくれた場所。
- 地域活性化という大きな目標に向かい共に切磋琢磨した仲間との絆は一生もの。かけがえのない同期を得た。
- まち塾のよいところは楽しいことばかりではないこと。仲間と悩んでがんばることで、真に成長できたと感じる。

（いずれも 2015 年度参加者）

3つの工夫

進め方の工夫

毎年異なるテーマを掲げ、テーマに沿った講師を選定、年間カリキュラムを組んで実施しています。参加者には成果物として企画提案を課しており、参加しっぱなしにならないよう、能動的に学びをアウトプットする機会を提供しています。

連携の工夫

県立高校や県総合社会教育センター、県の人材育成・地域づくり部局とも連携し、参加者募集、情報交換を行っています。また、「商店街をフレームとする地域づくり」をテーマとすることで、地域愛着が生まれやすい環境を整えています。

継続の工夫

取り組みから４年経ち、活動に参加した高校生が卒業後スタッフとして活動に協力するサイクルが生まれています。また、地元大学がクリエイトまち塾への参加を単位認定するなど、スタッフとして関わりやすい環境が整備されています。

将来の活動の方向性

取り組みを広く知ってもらうことで、高校生が地域とかかわり地域愛着を深める活動が広がってほしいと願っています。そこから「いつかは地元に帰ろう」という意識が生まれ、人口減少克服のカギにもなり得ると考えています。

活動の広がり

高校生のこころを育む活動への理解が広まり、地域全体で活動を育てる土壌が生まれつつあります。

活動体制

●クリエイトまち塾の概念図

●クリエイトまち塾を含む「クリエイト」を取り巻く組織環境

地域

あおもり若者プロジェクト クリエイト

内部的構成員
- ●事務局スタッフ（地元大学生、若手会社員）➡事業運営事務
- ●副担任（地元学生）➡クラス運営の支援

高校生参加者

外部的構成員
- ●担任（商店主）➡ホームルーム運営
- ●アドバイザー（大学教授・NPO関係者など）➡専門家としての支援
- ●サポーター（賛助）会員（活動に共感する企業や市民）➡資金面の援助

クリエイトまち塾の活動を支えてくださる地域の皆さん
- ●まち塾の講師…講義やワークショップを通じて知識や視点を提供
- ●大学……単位認定等を通じて大学生スタッフの確保に協力
- ●商店街組合……協力商店主の紹介や商店街イベントでの活動紹介機会を提供
- ●行政……事業に関する相談支援や援助、参加者募集にあたっての協力
- ●教育委員会……参加者募集にあたっての協力（各高校・中学校へのポスター掲示等）
- ●まち塾卒業生…折りに触れて活動に参加しながら高校生の活動を応援

連絡先　●所在地：〒038-0015 青森県青森市千刈1－3－1－202　●TEL：080-1808-3018　●E-mail：office@aocre.com
●HP：https://www.aocre.com/　●代表者／担当者：久保田 圭祐（理事長）

奨励賞

恵那市立串原小・中学校【岐阜県】

小さな学校 大きな教育

活動領域：学校 家庭 地域 企業　3つのこころ：自分に 他者に 社会に

選考理由

少人数の小中一貫校という特徴を生かした好モデルです。長年、子どもたちが山間地の伝統文化を守り抜く中核的な役割を果たしており、大きな社会でも通用する表現力の育成にもつながっています。

活動の概要と目的

ふるさとコミュニティによる小中一貫ふるさと教育

1981年より「小さな学校 大きな教育」を研究・実践のテーマにして、ふるさとコミュニティによる小中一貫ふるさと教育を展開してきました。串原の伝統文化や自然環境、地場産業を学ぶことにより、児童生徒がふるさとに誇りと愛着を持ち、自然や文化を継承しています。

小学校低学年は串原の花「ささゆり」を中心とした自然観察・環境保護、中学年は地場産業「串原こんにゃく芋の栽培とこんにゃくづくり」、ほたるの観察・保護を行っており、高学年は伝統芸能「串原歌舞伎」、中学生は県重要無形文化財「中山太鼓」を継承。また、2017年度から過疎化などのふるさと問題の解決策を提案する学習も取り入れ、ふるさと再生を目指す思考力や発想力の育成にも力を入れています。

総合的学習の時間などに地域の方から指導を受け、「串原歌舞伎」を演じる小学５・６年生。

子どもたちの変化・成長

伝統文化の継承活動によって、串原のことを誇りに思い、自慢できるようになっているほか、ふるさと問題への提案学習を通して、ふるさと再生の担い手は自分たちなのだという気概を持つようになっています。

（左）県重要文化財「中山太鼓」を受け継ぐ串原中。
（右上）農家の方とこんにゃく芋掘り。
（右下）地域の方に教わるこんにゃく作り。

参加者の声

- ささゆりのためにも、絶対にゴミを捨てないようにしたい。（小学校低学年）
- ホタルにもいろいろな種類がいると分かった。串原のホタルも川をきれいにして大切にしていきたい。（小学校中学年）
- 串原の歌舞伎を地域の方々が大切にしていることが分かったので、私も自分の演じる役をしっかりと演じ、伝統を伝えていこうと思う。（小学校高学年）

3つの工夫

進め方の工夫

ふるさと教育を教育課程に位置づけ、小中9年間の流れの中で付けたい力を明確にしています。2016年度からは小学校、中学校の全教員が小中兼務教員としての辞令を受け、児童生徒の9年間を見通した成長を指導援助しています。

連携の工夫

「串原ふるさとコミュニティ」を組織し、さまざまな団体・個人にふるさと学習の指導者として参加してもらっています。伝統文化や自然環境、地場産業を発展させたい各種団体と、学校授業のねらいが見事に一致しました。

継続の工夫

2015年からは串原の自然・もの・人を自分の言葉で発信する俳句創作も行っています。串原への愛情を育みながら、ふるさとの実情を理解し、自分たちが進んで将来のふるさとづくりを果たしていこうとする心情が育っています。

将来の活動の方向性

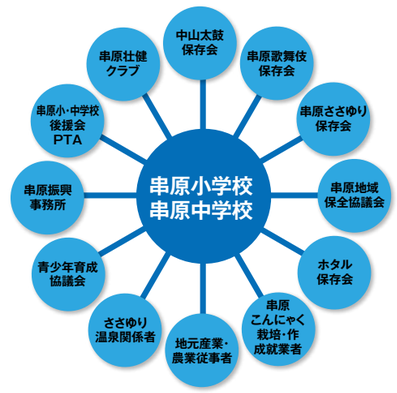
過疎化等のふるさと問題を自分たちの問題としてとらえ、地域の将来を考える子どもの育成を目指しています。また、地域としても、学校と関わることで地域のことを伝え、発展させるという生きがいを持てるようにしていきます。

活動の広がり

ふるさととこころの教育充実のため、「ふるさとコミュニティ」との連絡会を組織し、地域と一体となった教育活動を展開しています。串原地域の方の、生きがいや意欲にもつながっています。

活動体制

串原ふるさとコミュニティ



連絡先　●所在地：〒509-7831 岐阜県恵那市串原4083-2　●TEL：0573-52-2500
●E-mail：kushihara-j@ena-gif.ed.jp　●代表者：西田 拓郎（校長）　●担当者：水野 宏也（教諭）
●HP：串原小学校　http://www.ena-gif.ed.jp/kushihara-e
●HP：串原中学校　http://www.ena-gif.ed.jp/kushihara-j

奨励賞

一般社団法人

四日市大学エネルギー環境教育研究会【三重県】

ESDアクティブ・ラーニングによる出前授業

活動領域：学校 家庭 地域 企業

3つのこころ：自分に 他者に 社会に

選考理由

公害を乗り越えた四日市ならではの取り組み。環境教育について研究するだけでなく、その成果をもとに地域で学校教育、社会教育を行い、環境意識の高い人財を育成するという地元還元型のアプローチがユニークです。

活動の概要と目的

学校・社会教育で持続可能な社会のための“人づくり”

気候変動など悪化する地球環境が改善に向かう道を創るには、グローバルな「環境人財」の育成が不可欠です。当会は2002年から東海地域で環境教育を続けてきました。そのノウハウを用いて、多分野にわたる新教材の開発も行いながら、学校教育、社会教育の現場でESD（持続可能な開発教育）を浸透させる役割を担っています。

具体的には、地域で起きている課題に向き合い、学びを深めるためのさまざまな実験やグラフ、動く映像、工作などを準備し、子どもたちの心に届くよう工夫しています。未来を担う子どもたちに、一生を通して大切になる問題解決能力や生きる力、そして豊かな人間性を身につけてもらうことを目的として活動しています。

田んぼの生態観察など、地域課題を解決するための活動や人材育成も行っています。

子どもたちの変化・成長

東員町の小学校では４年にわたり授業を行っています。身近な問題を取り上げ、子どもたち自身が実験をして確かめる手法によって、環境問題を自分たちの問題として考えることができるように成長してきています。

（左）学校への出前授業「空気の汚れを知ろう」。
（右上）社会教育施設での風力発電工作。
（右下）地域の川や生き物を守る活動。

参加者の声

- 使える水の大切さをお母さんやお父さんに伝えて、家族で協力していきたい。（小学４年生）
- 将来、車を買うならほとんど排気ガスが出ない車にする。（小学４年生）
- 弁当に盛り付けをして、遠い国から来る食料について普通の授業よりとてもわかり、楽しかった。（小学５年生）
- 外国の輸入に頼っていると、輸入がストップしてしまったとき大変になることがわかった。（小学５年生）

3つの工夫

進め方の工夫

地球規模で起きている問題が実感できるよう、目で見てわかる実験や五感を使った体験を大切にしているほか、地域の課題を扱うときは、実際に現場に出向いたり、地域の人をゲストに迎えたりして、心に届く学びを進めています。

連携の工夫

東員町や四日市市の小学校で環境教育を行うほか、他団体と協働で教員研修、地域の自然保護活動にも携わっています。児童館、学童保育所、文化会館などでは、エネルギー工作の内容を毎年替えて、家庭での行動へとつなげています。

継続の工夫

学校教育は各学校の校長や担当教員らと年度当初にスケジュール、実施内容を話し合い、支援体制を整えています。社会教育施設での実施も依頼が増えており、大学生にもエネルギー工作や講座を教えて体制を充実させています。

将来の活動の方向性

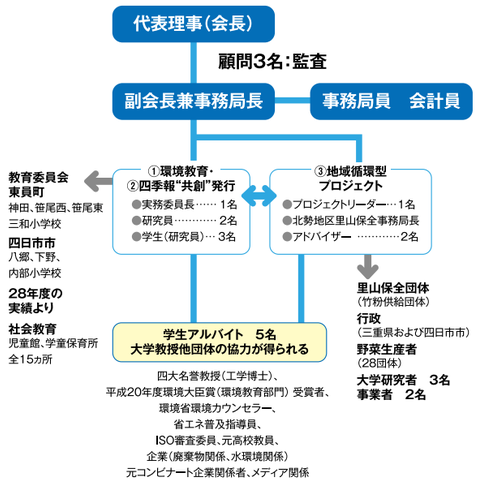
学校の先生が活用できるような学校ESDプログラムを作成中です。今後、学校でESDが浸透していく支援をするため、Webコンテンツを構築します。

活動の広がり

環境教育のほか、里山保存団体や野菜生産者、行政、大学、企業と連携する地域循環型プロジェクトも進めています。

活動体制

●一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会組織図



連絡先　●所在地：〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200番地　●TEL：059-343-1414　●E-mail：info@yokkaichi-ene.com
●HP：http://www.yokkaichi-ene.com/　●代表者：新田 義孝（会長）　●担当者：矢口 芳枝（副会長兼事務局長）

奨励賞

登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会【奈良県】

とみきたスクール

活動領域：学校 家庭 地域 企業

3つのこころ：自分に 他者に 社会に

選考理由

「ひつじの放牧」など、動物の飼育でこころを育む日本初の取り組みをはじめ、地域性と豊かなアイデアで多様な学びの場を展開している点や、コミュニティ側からの地域協働を高く評価しました。

活動の概要と目的

地域全体が子どもたちに『生きる力』を育む先生に

「学校で学ぶことができない学習や体験」を地域ぐるみで提供し、子どもたちに『生きる力』を育む活動です。

日本初の「ひつじの放牧」をはじめ、多彩な講座で学ぶ「とみきた塾」や「サマーセミナー」、学校や学年を越えて楽しく歌う「合唱クラブ」のほか、子どもの発達に不安があるお母さんが情報交換する「のんびりママの会」など、幅広く活動しています。また、学校と地域をつなぐ「カレンダーアプリ」を日本で初めて公立校で導入し、注目を集めました。

子どもたちは、地域でつくるユニークで多彩な学びの機会を得て、思いやりや自主性、対応力などを備えた豊かなこころを育んでいます。

常に活動内容の充実を図りながら地域の教育力を向上させ、コミュニティの再構築による地域の活性化を目指しています。

4月～9月に中学校の除草を行う「ひつじの放牧」では、子どもたちと地域の人が毎日のお世話を通してふれ合いながら学んでいます。

子どもたちの変化・成長

子どもたちは、ひつじの世話を通して動物への思いやりのこころを育み、環境への理解を深めることができました。また、小学生が中学校へ出入りすることで「中１ギャップ」を軽減させる効果もありました。

学校と家庭をつなぐカレンダーアプリを公立校で初導入。

参加者の声

- サマーセミナーでは、初めての講師の経験でしたが、うまく教えることができてうれしかった。（中学2年生）
- 呼ぶと元気に近寄ってきて、草を美味しそうに食べた。今日のひつじのうんこは問題ないようです。～ひつじの放牧担当者の日記から～（小学4年生）
- 学校カレンダーアプリは、学校の情報がスマホですぐに見ることができて便利です。夕食の買い物は、給食のメニューで考えることにしています。（保護者）

（左）ひつじの放牧では、毎日担当者が健康状態や感想を日記で報告。
（右）サマーセミナーの「折り紙講座」では、中学生講師が活躍。

3つの工夫

進め方の工夫

参加者やスタッフに、テーマや内容を明確に伝えています。活動終了後には、アンケートで事業を評価し、課題を検討して活動に反映させているほか、新たな内容を模索するなど、常にニーズに合う事業を考えています。

連携の工夫

「学校カレンダーアプリ」を導入して学校と家庭をつなぎ、魅力ある事業展開をすることで、連携の活性化を図っています。また、日頃の情報交換を大切に、ロータリークラブや企業、大学との連携を進めています。

継続の工夫

ボランティアの中から選んだ優秀なコーディネーターに統括を依頼して、常に事業の見直しと充実を図り、マンネリ化を防止しています。参加者も運営側も満足度が高く、4年間で41件マスコミ報道されました。

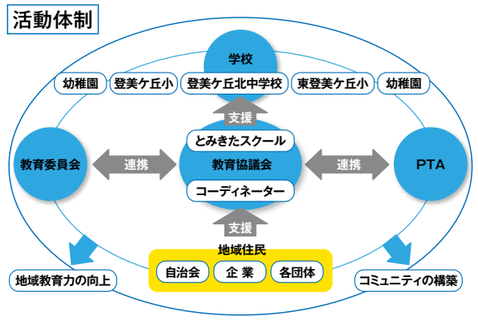
将来の活動の方向性

地域による教育力の向上を目指し、「家庭」「学校」「社会」が連携して常に魅力的な事業を展開できる体制を構築します。地域の特色を生かし、学校の枠を越えたユニークな学びの環境の中で、子どもたちの『生きる力』を育んでいきます。

活動の広がり

教育協議会を中心とした教育の連携体制が、「地域で子どもを育てる」環境を力強く支援しています。

活動体制



連絡先　●所在地：〒631-0001 奈良県奈良市北登美ヶ丘1-1-1 登美ヶ丘北中学校内　●TEL：0742-43-0176　●FAX：0742-49-0178
●E-mail：Kitutuki114@hotmail.com　●HP：http://tomikita.main.jp/　●代表者／担当者：村内俊雄（会長）

奨励賞

志免町立志免南小学校【福岡県】

共に生きる～心のバリアフリー～

活動領域：学校／家庭／地域／企業　　3つのこころ：自分に／他者に／社会に

選考理由

空き教室を利用した福祉施設であり、子どもと施設利用者が日々自然な形で交流できています。日常を重視した取り組みを評価し、インクルーシブ教育の実践モデルとして広がりを期待しています。

活動の概要と目的

小学校内に障がい者施設を設置。自然に共生社会を学ぶ場に

志免南小学校には、空き教室を利用した障がい者作業施設「ふれあいの部屋」があり、子どもたちと「ふれあいの部屋」を利用する皆さんが、年間を通して自然な形でさまざまな交流活動を展開しています。

障がいに対する壁を取り払い、共に生活する中で自然に関わりを深められる日常的な交流活動を目的としており、1999年にスタートした活動は19年目を迎えました。

学校行事をはじめ、総合的な学習や日々の交流を通して、子どもたちにはノーマライゼーションのこころが育まれています。こころの成長は、家庭や地域に広く伝わり、教育と福祉の融合モデルとして注目されています。

「ふれあいの部屋」は教室に隣接しており、休み時間には子どもたちが部屋を訪れて思い思いにふれあいを楽しんでいます。

子どもたちの変化・成長

障がいを個性と認め、差別や偏見なく自然に相手を思いやるこころが育まれており、行動にも現れています。また、子どもたちとの交流により、ふれあいの部屋の方の表情も豊かになり、自主性が高まっているようです。

（左）総合的な学習の時間は、共生社会の大切さを学ぶ場に。
（右上）運動会や遠足などの行事では、理解を深め、楽しく交流。
（右下）七夕など「ふれあいの部屋」の行事にも積極的に参加。

参加者の声

- ふれあいの部屋の方は、いつも笑顔で迎えてくれます。休み時間に一緒にダンスを踊ったりすると元気になります。もっと仲良くなりたいです。（3年生）
- 笑顔、やさしい心、勇気、あきらめない心の大切さを学びました。自分も強い心を持ち、世界中の誰とでも仲良く過ごしていきたいです。（3年生）
- 南小フェスティバルでは、ふれあいの部屋の方を紹介しました。交流で学んだことを知っていただきたいと、一緒に一生懸命練習し、発表しました。（3年生）

3つの工夫

進め方の工夫

子どもたちにも施設利用者の方々にもメリットがあるような交流方法を協議し、共通理解のもとに進めています。ありのままの姿を大切に、総合的な学習の時間や道徳、学校行事の時間を通して互いを尊び慈しむ指導の充実に努めています。

連携の工夫

小学校の教職員と施設の職員が情報交換を密に行い、共に生活する中での気付きや課題を共有するとともに、協議の場を設けています。また、ホームページに交流風景を掲載するなど、家庭や地域に向けて情報発信しています。

継続の工夫

学校とふれあいの部屋が共に活動できる場を常に模索し、ふれあう場を創出しています。問題が発生しても、方策を考え、共通理解を図って対応しています。着実に引き継ぎを行いながら、活動は19年目を迎えています。

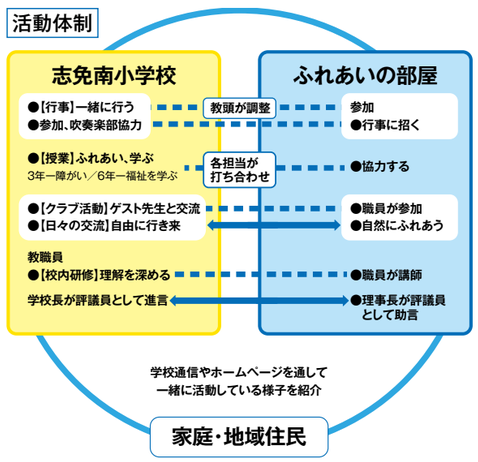
将来の活動の方向性

施設の存在を通して子どもたちに育まれたノーマライゼーションのこころは、家庭や地域に広がっています。これからも時間とこころのバリアフリーを継続させながら、共生社会を創る発信者、推進者となる子どもの育成を目指します。

活動の広がり

細やかな連携が交流を支え、子どもたちの成長した姿に地域全体が共生社会への理解を深めています。

活動体制



連絡先
●所在地：〒811-2208 福岡県糟屋郡志免町大字吉原556　●TEL：092-936-1900　●FAX：092-936-1700
●E-mail：Ms-minami@shime.ed.jp　●代表者：小南 裕彦（校長）　●担当者：深田 剛（教頭）
●HP：志免南小学校 https://www.town.shime.lg.jp/site/ms/
●HP：ふれあいの部屋（社会福祉法人 柚の木福祉会　福祉創造塾）https://yuzunokifukushikai.wixsite.com/fureai

子どもたちの“こころを育む活動”2016年度受賞団体

この1年（2017年）の活動紹介

子どもたちの「こころを育む活動」を支援する全国運動は、2008年度より優れた活動を支援し続け、2017年度で10回目の表彰となりました。受賞された皆さまの多くは、その後も精力的に活動を継続されています。ここでは、2016年度受賞者の皆さまの受賞対象となった活動と、受賞後の活動についてご紹介いたします。

2016 全国大賞

和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー部【和歌山県西牟婁郡】

地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して～5つの絆作りボランティア～

高校生が、クラブ活動として主体的に多様なボランティア活動を行っている『サービスラーニング』を取り入れた継続的な取り組みです。

活動は、地域の高齢者・学童・障がい者とのふれあいを大切にしたサポートから、地域のイベントを盛り上げるダンス披露、ダンスでの交流と幅広く、目標とする「地域に根ざし、地域に貢献するリーダー」としての成長が、地域の絆作りや問題解決に貢献しています。

2017年の活動　クラブの実績を必修科目に展開し、さらに幅広く活躍

今年度は、クラブ活動として実践してきたサービスラーニングを必修科目「家庭基礎」に導入し、展開しました。また、障がい者の方々と社会人野球の応援交流をしたほか、劇団の舞台に参加したり、マラソンのサポートも行いました。セミナーなどに参加し、地域の課題解決に向けて学びを深めつつ、ダンスを活用した通常の地域支援活動にも引き続き活発に取り組みました。

社会人野球の応援活動を障がい者の方々と一緒に行い、飲み物を手渡したり、チアリーダー体験や体操、踊りなどで交流を深めました。

●所在地：〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670番地　●TEL：0739-47-1004　●FAX：0739-47-4200　●E-mail：admin@kumano-h.wakayama-c.ed.jp
●HP：http://www.kumano-h.wakayama-c.ed.jp　●代表者：桝井 智輝（キャプテン）　●担当者：上村 桂（顧問）　田城 賢司・藤川恭平（副顧問）

2016 優秀賞

糸魚川市立能生小学校【新潟県糸魚川市】

フウセンカズラ高齢者見守り隊

小学生が「フウセンカズラ」の苗を育て、一人暮らしの高齢者宅に配布。その後も週1回訪問し、関係団体と協力して日常的な関わりと見守り活動を行う「フウセンカズラ高齢者見守り隊」を行っています。

2017年の活動　冬場はミニシクラメンを配布し、通年で活動

5月に5、6年生でフウセンカズラの種を600ポット植え、6月下旬に地域の高齢者宅や企業、保育園などへ苗を配布。夏休みも含めて訪問活動を続けました。12月には、恒例の「お楽しみ交流会」を開催したほか、冬場に楽しめるミニシクラメンの苗を配布しました。

フウセンカズラお楽しみ交流会では、お年寄りと紙相撲やすごろく、輪投げなどの昔遊びを楽しみました。

●所在地：〒949-1352 新潟県糸魚川市大字能生4485　●TEL：025-566-2026　●FAX：025-566-3159
●E-mail：noushou@itoigawa.ed.jp　●HP：http://www.itoigawa.ed.jp/noushou/　●代表者／担当者：猪又 英一（校長）

2016 優秀賞

福井市至民中学校【福井県福井市】

シン（進・深・信・新）化 チーム「至民」

卒業生や地域住民による学校応援団「サポート至民」が、学校と連携してさまざまな教育活動支援を行っています。また、生徒も地域行事に積極的に参加して、社会性や地域への愛着を育んでいます。

2017年の活動　生徒のアイデアで「至民中マルシェ」を開催

昨年度の公民館のまちづくりワークショップで、至民中の生徒が出したアイデア「至民中マルシェ」（フリーマーケット）が、10月1日（日）に実施されました。今回は美術部が手作りの雑貨や美術作品を販売してみようと、地域の方々と一緒に出店しました。

至民中マルシェでは、多くの品物を売ることができ、生徒たちの貴重な社会体験の機会となりました。

●所在地：〒918-8032 福井県福井市南江守町65-20　●TEL：0776-35-3840　●FAX：0776-35-8012
●E-mail：k-ogu255@fukui-city.ed.jp　●HP：http://kodomokisha.net　●代表者／担当者：中村 淑子（校長）

2016 奨励賞

非営利任意団体 KAKE COMI【福島県白河市】

まかないこども食堂「たべまな」でのピアサポート学習支援

すべての子どもたちが家庭環境や経済状況、学校に適応できないなどの理由で夢を諦めることのないように、こども食堂で高校生が「先生」となる小・中学生のピアサポート学習支援を行っています。

2017年の活動　サポートを受けた子どもたちが成長し、ピア先生に

ピア先生は勉強を教えるだけでなく、学校や友だち関係の悩みを聴き、安心できる関係性を築くことで子どもたちの不安を和らげ、自己肯定感を支えます。来年度は「たべまな」でサポートを受けていた中学生が高校に進学し、3代目ピア先生として活躍する予定です。

月曜日の午後から夜にかけて開く「たべまな」。さまざまな理由で学校へ行けない子どもたちも集います。

●所在地：〒961-0856 福島県白河市新白河2-24　●TEL：0248-21-7912
●E-mail：info@kakecomi.org　●HP：www.kakecomi.org　●代表者／担当者：鴻巣 麻里香

子どもたちの“こころを育む活動”表彰

歴代全国大賞受賞団体（2008年度～2016年度）

2008年度

公益社団法人 群馬県助産師会（群馬県）
〒373-0018　群馬県太田市丸山町250-7／TEL.0276-37-5198

テーマ 子どもの自己肯定感を育む「いのちの講座」

2009年度

山形県立置賜（おきたま）農業高等学校演劇部（山形県）
〒999-0121　山形県東置賜郡川西町大字上小松3723／TEL.0238-42-2101

テーマ 農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル

2010年度

特定非営利活動法人 オバパト隊（熊本県）
〒862-0913　熊本県熊本市尾ノ上1-39-15／TEL.096-381-2447

テーマ 高齢女性パトロール隊による、安心安全な子育て環境づくり

2011年度

石榑（いしぐれ）の里コミュニティ（三重県）
〒511-0266　三重県いなべ市大安町石榑南611いなべ市立石榑小学校内
TEL.0594-78-0002

テーマ 地域全体で子どもを守り育てるための学校と地域による組織づくりと協働活動

2012年度

東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊（兵庫県）
〒664-0021　兵庫県伊丹市高台2-54伊丹市立東中学校内／TEL.072-782-3058

テーマ 地域・学校・家庭と生徒たちによる循環型の地域活性活動

2013年度

熊本市立出水南（いずみみなみ）小学校（熊本県）
〒862-0941　熊本県熊本市中央区出水4-1-1／TEL.096-363-5671

テーマ 小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動

2014年度

仙台市立南吉成（みなみよしなり）中学校（宮城県）
〒989-3204　宮城県仙台市青葉区南吉成5-18-2／TEL.022-277-4377

テーマ 大震災から学び、前に進む力を培う、復興支援活動と防災教育

2015年度

鹿角（かづの）市立八幡平（はちまんたい）中学校（秋田県）
〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字諸田4 -1／TEL.0186-32-2226

テーマ 郷土愛を育み、人間関係力を培う八幡平ボランティアガイド

2016年度

和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー部（和歌山県）
〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670／TEL.0739-47-1004

テーマ 地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して

●詳しい活動内容はホームページで紹介しています。

パナソニック教育財団 事業の紹介

「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育む

パナソニック教育財団は、1973年にICT教育の振興を目的に設立され、40年以上にわたって、小中高等学校等の教職員や研究グループを支援し、ICTを活用した教育の普及・拡大を目指し、研究・助成活動に取り組んできました。

現在は、2005年に立ち上げた「こころを育む総合フォーラム」と合わせ、公益活動の両輪とし、次世代を担う子どもたちの「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育む活動を行うとともに、その活動内容や研究成果を幅広く発信しております。

学校教育に対する研究・助成事業
「未来をつくる創造力と確かな学力」を培うために、ICTを活用し、実践研究に取り組む教育現場に対して助成等を行う事業

こころを育む総合フォーラム
明日の未来を担う子どもたちのために、「豊かなこころを育む活動」を広げ続けていく事業

学校教育に対する研究・助成事業　2017年度活動

実践研究助成

ICTを効果的に活用して、教育内容及び教育方法の改善等に取り組む実践的研究を募集（前年度の12月～1月）
「一般」と「特別研究指定校」の２種類

一般
①助成金…… 1件あたり50万円
②助成期間　1年間
③助成件数…72件

特別研究
①助成金…… 1件あたり150万円
②助成期間　2年間
③助成件数…5件

4月に助成金の贈呈を行い、1年間授業実践と研究活動を行い、翌年の夏休みに成果の発表を行います。

助成金の贈呈

実践活動

成果の報告

共同研究

学校現場でのICTの活用をより効果的にするために、関係団体等と共同研究を実施

研修モデルの検討
教育委員会等とICTを効果的に活用する研究会を立ち上げ、授業モデルの検討や研修会の仕組みを研究。

公益財団法人 パナソニック教育財団 ▶http://www.pef.or.jp/

詳しい活動内容はホームページで紹介しています。